



# Ferment Glass

生物は死後、微生物によって分解される事で豊かな土壌を形成し環境へ還元してきた。それは動物の糞も同様に、やがて朽ち果て循環に属する「合理的な」建築といえる。人間の家を循環から捉えた時、近代以降の住宅は不朽の素材から構成され、ガラスは永遠の純化された存在であることを強いられてきた。

発酵/腐敗していくガラスを考える。  
 発酵と腐敗は同義でありその言葉は観察者(人間)本位で区別される。  
 時間と環境と人間という不純物を受け入れたガラスは徐々に朽ちていく。  
 人はそれまで腐敗と捉えていたものと対峙し、その価値観は揺れ動く。

透明だった光は淀み変色する / フリズムが世界を虹色に彩る。  
 実像と思えた景色は歪みだす / 視覚を超えた本能を呼び覚ます。  
 水平垂直の計画性は綻び始める / 不確定性の中に居場所を見出す。

自然の輪廻を受け入れたとき、人はその一部であったことを思い出す。  
 21世紀の家は、地球本位の循環に生存と豊かさを見出す行為によって切り開かれる。

